

《絲綢之路天空》1982年 個人蔵

平山郁夫展

— 文化財赤十字への道 —

プレス向け内覧会情報、開会式情報、主要作品解説を掲載しました。(3/27更新)

会 期:平成26(2014)年4月8日(火)～6月1日(日) **会期中無休**

開館時間:9:00～17:00(金曜日は20:00まで)

※4月8日(火)は10:00から

※入館は閉館30分前まで。

料 金:一般 1,100円 (900円)

高・大学生 600円 (400円)

小・中学生 400円 (200円)

※()内は前売・20名以上の団体

星星會展とのセット券 ※前売販売に先行して2月20日より販売!

2つの展覧会のセット券を当館限定で販売!

販売期間:2月20日(木)～4月6日(日)

販売場所:広島県立美術館

料 金:一般 1,200円

※通常料金(両展の前売券合わせて)1500円から300円引き



- ・JR広島駅より約1km
- ・広島城より約400m
- ・市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車約20m
- ・ひろしまめいぶる～ぶバス「県立美術館前」下車



名勝「縮景園」とともに歩む アートの社
広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL (082)221-6246
http://www.hpam.jp/ FAX (082)223-1444

press release

平山
郁夫展
—文化財赤十字への道—

【プレス向け内覧会について】

下記の通り、「平山郁夫—文化財赤十字への道—」展の開幕前日にプレス向け内覧会を開催します。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

※当日は休館日です。職員通用口からご入館いただき、3階大会議室へお越しく下さい。

※所要時間は、内覧会を含めて1時間程度を予定しております。

日時／平成26年4月7日(月)午後1時30分～

場所／広島県立美術館3階 大会議室・企画展示室

1 展覧会の概要説明（当館3階大会議室）

・広島県立美術館長 越智 裕二郎

2 内覧（当館3階企画展示室）

・広島県立美術館長 越智 裕二郎

【開会式について】

下記の通り、「平山郁夫—文化財赤十字への道—」展の開会式を行います。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

※現在の予定であり、当日変更となる可能性があります。

日時／平成26年4月8日(火)午前9時30分～

場所／広島県立美術館3階企画展示室入口ロビー

1 開会の辞

2 主催者紹介・挨拶（主催者全員を紹介ののち挨拶）

- ・広島県立美術館長 越智 裕二郎（紹介・挨拶）
- ・公益財団法人平山郁夫美術館 理事長 平谷祐宏（紹介のみ）
- ・公益財団法人平山郁夫美術館長 平山 助成（紹介のみ）
- ・中国新聞社 代表取締役社長 岡谷 義則（予定）（紹介のみ）

3 特別協力者紹介

- ・公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館 館長 平山 美知子 様（紹介・挨拶）

4 協賛者紹介

- ・広島県信用組合 会長 吉田 貞之 様（紹介のみ）
- ・広島県信用農業協同組合連合会（未定）（紹介のみ）
- ・リベラ株式会社 美術館準備室 係長 植野 泰朋 様（紹介のみ）
- ・丸栄堂 代表 浅木 正勝 様（紹介のみ）

5 祝電披露

6 テープカット

- ・公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館 館長 平山 美知子 様
- ・広島県立美術館長 越智 裕二郎
- ・公益財団法人平山郁夫美術館 理事長 平谷祐宏
- ・公益財団法人平山郁夫美術館長 平山 助成
- ・中国新聞社 代表取締役社長 岡谷 義則（予定）

7 閉会の辞

（内覧）

【展覧会概要】

広島市内では没後初めてとなる回顧展

日本画家で文化勲章受章者の平山郁夫(1930-2009)は、広島県瀬戸田町(現・尾道市)で生まれ、仏教やシルクロード、世界の文化遺産などをテーマに、東西文化の交流史を壮大なスケールで描きました。人類の悠久の歴史を辿るその幻想的な絵画世界は、清寂な情感をたたえ、多くの人々の共感を生んでいます。1945(昭和20)年に広島市内で被爆し、原爆の後遺症に苦しめられた画伯は、平和への祈りを作品に込め、未来への希望を紡ぎ出そうとしました。また世界各地を取材していく過程で、貴重な文化遺産を災禍から守り後世に伝えようと「文化財赤十字」構想を提唱、その活動業績は世界でも高く評価されています。

本展覧会は、平山郁夫の幼少期から晩年までの画業を約80点の作品で振り返るとともに、夫妻が収集した優れたシルクロードの美術コレクションを展示し、画伯が長年尽力した文化財保護活動にも焦点を当てつつ、多岐にわたった業績を顕彰します。

平山郁夫について

平山郁夫(1930・昭和5—2009・平成21)

広島県尾道市瀬戸田町に生まれる。1945(昭和20)年 学徒勤労動員の作業中、被爆。1947(同22)年 東京美術学校(現・東京藝術大学)入学。卒業後は前田青邨に師事する。1953(同28)年の初入選以来、日本美術院を舞台に活躍し、1961(同36)年には日本美術院賞・大観賞を受賞、1996(平成8)年には日本美術院理事長に就任した。また、1960年代後半、仏教美術の源流をたどりつつ、シルクロードの各地を取材。1997(平成9)年 郷里・瀬戸田町に平山郁夫美術館が開館。翌年 文化勲章を受章。広島県名誉県民の称号を贈られる。仏教やシルクロードをテーマに多くの作品を生み出しつつ、東京藝術大学の学長として後進を指導、さらには世界の文化遺産保護にも尽力するなど多岐にわたって精力的に活躍した。



京都南禅寺にて(2003年)

【展覧会構成と内容】 会期中、一部の作品の展示替を行います。

第一章 原風景

陽光あふれる瀬戸内の豊かな自然は、画家・平山郁夫の感性と切り離すことはできません。この章では、少年期から青年期にかけて、主にふるさと瀬戸田の風土を描いた作品を紹介。《家路》は、日本美術院展に初入選した記念すべき作品です。



《自画像B(着帽)》
1951年 平山郁夫美術館



《家路》1953年 広島県立美術館

第二章 仏教伝来

1959(昭和34)年に発表した《仏教伝来》に始まる釈迦の生涯を描いた作品は、画壇での注目を集め、評価を高めることになりました。シルクロードへ目を向ける契機ともなり、後の画業の方向性を決定づけることとなった仏伝シリーズの代表的作品をご紹介します。



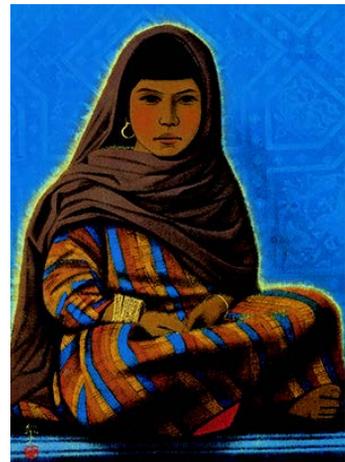
《天山南路(夜)》1960年
佐久市立近代美術館
※5月8日から展示



《入涅槃幻想》
1961年 東京国立近代美術館
※4月8日から5月7日まで展示

第三章 シルクロード

東西の文化が交流し、仏教が伝来した道・シルクロード。平山郁夫は、1966(昭和41)年を皮切りに、シルクロードへの旅を重ねました。各地への取材が結実した画面の多くは、褐色の大地や群青の空のうちに、悠久の時を感じさせる作品になっています。大作はもちろん、画家の心の動きを直接的に伝えるスケッチも見どころの一つです。



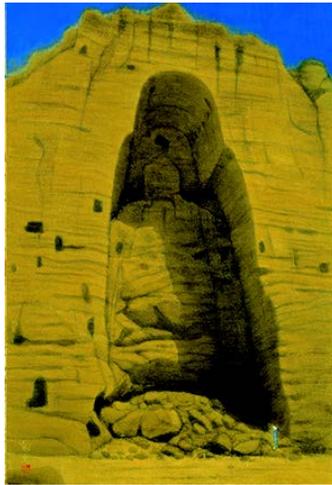
《アフガニスタンの少女》1972年 個人蔵

【展覧会構成と内容】

第四章 文化財保護活動

各地の遺跡を取材するうちに、人類共通の文化遺産が自然の脅威や戦争などの人為的破壊にさらされ、危機に瀕している現状を目の当たりにした画家は、それらを保存修復し、歴史的遺産として後世に残す必要性を痛感しました。画家が尽力した文化財保護の活動は、中国・敦煌やカンボジアのアンコールワット、アフガニスタンのバーミアン大石仏など世界各地で展開され、高く評価されています。

生涯をかけて尽力した保護活動は、夫妻が散逸を危惧し私財を投じて収集したコレクションからも感じることができます。



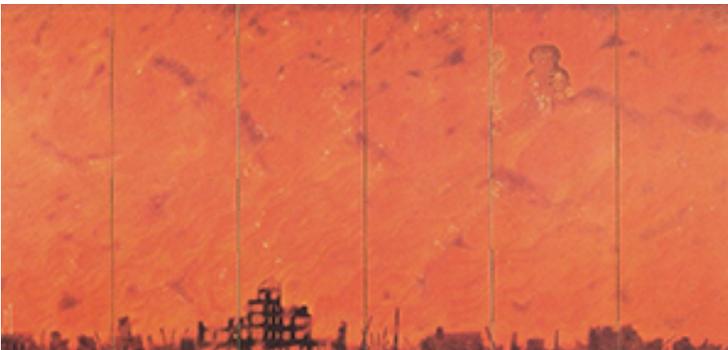
《破壊されたバーミアン大石仏》
2003年 平山郁夫美術館



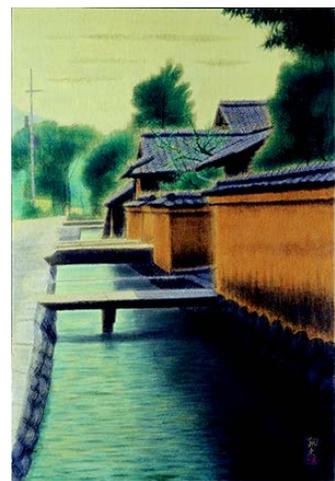
《仏陀坐像》2～3世紀
平山郁夫シルクロード美術館

第五章 日本の美、平和への祈り

仏教伝来やシルクロードをテーマに制作をつづけ、また保護活動に邁進した画家の活動の出発点は、平和への希求にあるとも考えることができます。この章では、仏教東漸の終着点として、日本の豊かな歴史文化を描いた作品とともに、画業の根幹をなす平和への願いに根ざした作品をご紹介します。



《広島生変図》1979年 広島県立美術館



《上賀茂の春》2003年 個人蔵

【主要作品解説】

《受胎霊夢》

金色の光に包まれた白い象。地上で迎えるように描かれているのは、東屋に腰掛ける摩耶夫人（釈迦の母親）である。釈迦を身ごもる際、夢に白象が現れたという伝に因んだ本作は、画家自身の子どもが誕生した時の思い出と、釈迦の誕生とを重ね合わせ、「人が生まれ出でてくるときに働く超自然的な、あるいは神秘的な力を表現」することをめざしたという。空には満天の星が輝き、濃い群青に包まれた静かな世界には、深い清浄感が漂うようである。

《受胎霊夢》
1962年
広島県立美術館



《絲綢之路天空》

「絲綢之路」はシルクロードを意味し、背景の山は、天山山脈の支脈にあたる火焰山の一端だという。逆光のために小さくシルエットと化したラクダの隊商は、空間の果てしない広がり、遮るものなく強い光に晒されて進む、旅の過酷さをも強調するようである。小さな営みは呑み込まれてしまいそうな広大な土地だが、隊列を組み、一歩ずつ歩を進めて前進する人たちにより、はるか昔から文化や物資が行き交った。画家が目にした自然景をもとに描きつつ、昔日の往来をも彷彿とさせるような画面には、悠久の時間が塗り込められているようである。



《絲綢之路天空》1982年 個人蔵

《祈りの行進 聖地ルルド・フランス》

フランス南西部の町・ルルドは、スペインとの国境、ピレネー山脈のふもとに位置し、聖母マリアの出現や、病を癒す奇跡の泉で知られるカトリック教会の巡礼地である。

この作品は、ルルドで行われたマリア行進を描いたもの。画家自らもこの行列に加わったことがあるという。さまざまな地域から集まり、賛美歌を唱和しつつ行進する信仰篤い人々。祈りに満ちた穏やかな画面からは、平和へとつながる人々の平安な心のありようを見つめ、そこに美を見出す画家の視線を感じることもできる。



《祈りの行進 聖地ルルド・フランス》
2008年
平山郁夫シルクロード美術館

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 学芸課 藤崎 綾

事業推進課 山本恵子

【関連イベント】

記念講演会①

「平山郁夫と文化財保護活動について」

講師：平山助成（平山郁夫美術館館長）

日時：4月13日（日）13:30～（開場13:00）

場所：地階講堂

※聴講無料。申込不要（先着200名）

記念講演会②

「平山郁夫の芸術」

講師：尾崎正明（美術史家）

日時：5月3日（土・祝）14:00～（開場13:30）

場所：地階講堂

※聴講無料。申込不要（先着200名）

ワークショップ（星星會展との共同企画）

①日本画の画材で塗り絵をしよう！

講師：廣藤良樹（日本画家、日本美術院院友）

日時：5月6日（火・振休）13:30～

場所：3階ロビー

対象：小・中学生（保護者同伴可）

定員：5名

※参加無料、要事前申込

※小学生の方には必ず保護者の方の付添をお願いいたします。

②日本画の画材でブックカバーをつくろう！

講師：廣藤良樹（日本画家、日本美術院院友）

日時：5月11日（日）13:30～

場所：3階ロビー

対象：一般（高校生以上）

定員：10名

参加料（材料費）500円

※要事前申込

ワークショップ申込方法

申込方法：ワークショップ名、参加者・保護者のお名前、年齢（こどものみ）、電話番号を添えて、お電話にてお申込みください。 広島県立美術館 Tel:082-221-6246

【関連イベント】

ギャラリートーク

講師：当館担当学芸員

日時：4月11日(金)、4月18日(金)、4月25日(金)、5月2日(金)、5月9日(金)、5月16日(金) 11:00～
5月23日(金)、5月30日(金) 18:00～

場所：3階企画展示室

※平山郁夫展の入館券が必要です。

ウェブ・レポーター大募集

インターネットで情報発信をされている方に星星會展をご鑑賞いただき、その素敵な感想をインターネットを通じて、情報発信していただきます。もちろん、ウェブ・レポーターとして当日ご参加いただく方は、無料で平山郁夫展をご鑑賞いただけます。

日時：4月11日(金)17:00～19:30

受付場所：3階ロビー 実施場所：3階展示室内

対象：ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどで情報発信をされている一般の方

特典：実施当日限り、平山郁夫展にご招待

【開催概要】

展覧会名称

平山郁夫展

サブタイトル

—文化財赤十字への道—

開催クレジット

主催：広島県立美術館、公益財団法人 平山郁夫美術館、中国新聞社

特別協力：公益財団法人 平山郁夫シルクロード美術館

後援：中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー
76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMIはつかいち76.1MHz

協賛： 広島県信用組合、 JAバンク広島、 IBERA リベラ株式会社、丸栄堂

会期

平成26(2014)年4月8日(火)～6月1日(日)

※会期中無休

※9:00～17:00(金曜は午後8時まで開館)

※4月8日(火)は10:00から。入館は閉館30分前まで。

入館料

一般：1,100円(900円) 高・大学生：600円(400円) 小・中学生400円(200円)

※ ()内は前売り・団体20名以上

※ 学生券をお求めの際は学生証のご提示をお願いします。

※ 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)
の当日料金は半額

※ 特別展入館券で所蔵作品展もご覧いただけます。

※ 電子チケット：セブン・イレブン(セブンコード：029-151)

問い合わせ先

広島県立美術館 〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444 E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 学芸課 藤崎綾、事業推進課 山本恵子